能登

広報のと
No. 61
2010.3

立春前夜
小さな鬼が
怠け心を戒める

Photo ／ 2 月 3 日に行われたアマメハギ（国指定無形民俗文化財）＝秋吉地区

広報のと　第61号
平成22年3月1日発行

■発行：能登町　■編集：広報情報推進課
〒927-0492
石川県鳳珠郡能登町字宇出津新1字197番地1
☎：0768-62-1000㈹
能登町 URL：http://www.town.noto.ishikawa.jp
E-メール：info@town.noto.lg.jp

平成２２年
3

能登日和 英国日和（イギリス）

能登町を古里として
英国で活躍する抒情書家

室谷文音がつづる
フォトエッセイ。

通称ビッグベン、英国の国会議事堂です。ロンドン暮らしが長くなっても、ビッグベンを見るたびウキウキしてしまいます。『ああ私ロンドンに住んでいるんだな』と思う瞬間でした。

この８年間、お世話になったポストです。ここ数年ですっかりインターネットの時代になってしまいましたが、やっぱり手書きの手紙はいいものですね。

「自分で出した、卒業証書」

「どうしてイギリスへ行こうと思ったの？」
13歳で一人渡英した私がよく問われる質問です。親が特別教育熱心だった訳でもなく、英語が話せるようになりたいからイギリスを選んだ訳でもありません。
ただ、一冊の本との出会いがきっかけでした。小学校4年生の時、三輪裕子（みわゆうこ）さん作の「緑色の休み時間」を読んで感動し、私はイギリスに行く夢をふくらませました。

京都府美山町の山奥で過ごした子供時代。「周りに合わすエネルギーを一度でいいから自分のためだけに使ってみたい。イギリスに行かせてほしい」
囲炉裏端で泣いて両親を説得したのが15年前のことです。美山中学校を辞める時、大好きだったベテランの英語の先生が、「全校生徒の前であいさつして辞めなさい。それができなかったらイギリスには行かれへんよ。」と言われ、舞台に上がりあいさつをしました。
その時初めて担任の先生をはじめとする、大半の人が親ではなく私自身がイギリスへ行きたいんだ、とわかってくれたのです。

中学一年の終業式が、私にとっての卒業式でした。あの日私は、自分で自分に「卒業証書」を出したのです。

室谷文音（むろや・あやね）

昭和 55 年大阪府生まれ。13 歳で渡英し、名門セントラル・セイント・マーティン美術大学を卒業。平成 18 年に両親と共に京都府美山町から能登町に移住する。内浦長尾にアトリエ「桃花林」を構える。21 年 5 月から能登町ふるさと大使。

『はじまり』

「広報のと」3 月号の印刷費は一部当たり 27 円です。

PRINTED WITH SOY INK